

勤務医部会だより

チーム医療における心理的安全性について



幹事 加田賢治

(独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO))

中京病院副院長)

チーム医療の重要性が広く認識され、総合病院においては数知れずの医療チームが稼働しています。しかしながら、多職種チームならではの有機的・効果的な活動ができていないケースは必ずしも多くはない印象です。先日、日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会において、「チーム医療における心理的安全性」に関連する講演を拝聴しました。心理的安全性はとても重要な概念と感じ、私なりにまとめてみましたのでご紹介させていただきます。

1. 心理的安全性 (psychological safety) の意義と効果

- ・心理的安全性とは、メンバーが「自分の意見や懸念を表明しても他者から否定されない」と感じられる環境を指します。医療現場では、これがないと問題点の指摘や意見交換が滞り、医療ミスが見逃される危険性が高まります。
- ・心理的安全性が確保されているチームでは、コミュニケーションの質が向上し、チームパフォーマンスが向上することが多く報告されています。具体的には、医療ミスの予防、患者ケアの向上、チームの信頼感の醸成が挙げられます。

2. 医療現場で心理的安全性が求められる理由

- ・多職種の協働：医療現場では、医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション専門職など、異なる職種の専門家が関わります。職種や経験によって意見の違いがある中で、各職種の知識や意見が対等に扱われることが重要です。
- ・ミスのリスク管理：医療の現場では小さなミスも命に関わる可能性があります。心理的安全性がないとミスが指摘されないままに診療が進んでしまう可能性が高まります。例えば、手術中に同僚医師や看護師が執刀医の判断ミスに気付いても、怖

くて声をあげられない場合が当たります。

- ・複雑な意思決定：多くの患者に対して、異なるケースごとに最適な判断を下すためには多角的な視点が必要です。そのため、自由に意見を出し合える環境が欠かせません。

3. 心理的安全性を高めるための方法

- ・リーダーシップの重要性：チームリーダーが心理的安全性を積極的に促進することが不可欠です。リーダーが率先して意見を引き出し、意見を尊重することで、メンバーも安心して発言しやすくなります。
- ・フィードバック文化の確立：ポジティブなフィードバックだけでなく、建設的な批判も歓迎される文化があると、メンバー間での信頼が深まります。たとえば、ミスを恐れず指摘できる場を設けることが重要です。
- ・定期的なコミュニケーションの機会：定期的なチームミーティングやカンファレンスを設け、情報共有と意見交換の機会を増やすことで、安心して発言できる場を作ることが心理的安全性の向上に繋がります。

4. 心理的安全性の課題

- ・医療現場の階層的構造：日本の医療現場では、上位の立場にある医師の意見が強く影響することが少なくありません。この構造が心理的安全性を脅かす要因になることがあります。
- ・文化的・組織的な障壁：一部の医療機関では、心理的安全性を十分に理解していないケースもあり、組織全体としての意識改革も必要です。

最後にグーグルの「プロジェクト・アリストテレス」について簡単にご紹介します。これは、2012年に始まった、効果的なチームを構成する要素を明らかにするためのプロジェクトで、なぜ一部のチームが他のチームよりも高いパフォーマンスを発揮するのかを理解することを目的に進められました。数百のチームを分析し、チームの成功に寄与する要因を特定しました。

調査の結果、成功するチームには以下の5つの要素が共通していることが判明しました。

1. 心理的安全性 (Psychological Safety)
2. 信頼性 (Dependability)
3. 明確な構造と明確な役割 (Structure and Clarity)
4. 仕事の意義 (Meaning of Work)